

# イギリスといえば、紅茶。 でも、なぜだか知っていますか？

イギリスで紅茶が初めて輸入されたのは17世紀。  
1630年頃にオランダの商船が日本と中国から  
お茶を買い付けて周辺諸国に販売したことが、  
お茶とイギリスの出会いだったと言われています。  
お茶が輸入されるその前は、

当時のイギリスの生水は基本的には飲むことが出来なかったそう。

そのためアルコール類が飲まれることが多く、  
アルコール中毒者がとても多くいたそうです。

17世紀になりお茶と一緒にコーヒーやチョコレートが輸入されるようになり  
初めはコーヒーが人気を集めたのですが、コーヒーとチョコレートの貿易主導権を  
フランスやオランダに握られてしまった事で、

入手しやすく安価な紅茶へ徐々にシフトしていく事となります。

紅茶には抗菌作用があるため、1665年にロンドンで大流行した「ペスト」にも  
効果があったと考えられ普及は進んでいきました。

チャールズ2世の元に嫁いだ王妃キャサリンが東洋趣味で宮廷に喫茶の風習を  
もたらした事もあり、その後上流階級のステータスとして広まり、  
労働者階級にまで普及することになり今に至ります。



## — 紅茶の特徴 —

スリランカの山や渓谷が広がる  
標高1100～1600mに位置する高地、  
ディンブラ地方の茶葉を使用。

セイロンの5大紅茶の内のひとつで  
「紅茶の優等生」と呼ばれるほどの  
芳醇な香りと爽快な渋みが特徴です。

※セイロンとは、  
スリランカの旧国名です。

## — 美味しい飲み方 —

200ccのお湯に対してティーバック1ヶ  
抽出時間は約1分半がおすすめです。

テイストはしっかりめなので  
ストレートはもちろん  
ミルクティーにも相性◎  
食事に合わせても美味しく  
お召し上がりいただけます。



@WIR\_JOURNEY\_0523



<https://wirjourney.base.shop/>



— 食卓の魔法 —